

座談会：中学校と高校の違いについて

中学校、高校両校種の勤務経験がある先生方にお集まりいただき、座談会を行いました。高校の教員にとって知っているようで知らない中学校の実態。中高における教科指導の違いや学校の実情などを赤裸々に語っていただきました。

座談会出席者を簡単にご紹介します。

A 先生：中学校採用で現在高校勤務。ベテラン。

B 先生：高校採用で中学校に勤務後、現在高校勤務。若手。

C 先生：高校採用で現在中学校勤務。中堅。

D 先生：中学校採用で高校に勤務後、現在中学校勤務。ベテラン。

E 先生：中学校採用で高校に勤務後、現在中学校勤務。若手。

(以下、各先生方を【A】～【E】、司会者を【司】、編集委員を【編】と表記)

1 教科指導の違い

— 中学校へ異動して驚いたことや初めて知ったことはありますか。

【C】授業の最初に本時の学習目標を書くことです。私は最初の2週間くらい何も書いていませんでした。周りの教室を見ていると、やることをまず提示してから授業をするんです。それからコンパスや定規をしっかりと使って作図することです。

【A】私も中学校勤務のときは、定規を使いながら授業していました。今よりも板書が丁寧だった気がします。習熟度もそうですが、中学校には色々な能力の子がいます。板書を取るのが速い子もいれば遅い子もいる。だから、ある程度丁寧に書くぐらいがちょうどよかった。先ほどC先生がおっしゃったように、本時のねらいや目標とまとめを黒板の左上と右下にそれぞれ黄色と赤で書いて、1時間の授業の中で黒板を消すなどという指導を受

けました。

【C】でも実際は難しいですね。

— 中学校におけるアクティブラーニング型授業やICT授業はどのように行っていますか。

【C】私が中学に行って思ったのは、予想していたほど普通の授業でアクティブラーニングやICT授業はやっていないということです。設備は高校に比べて揃っていますので使い方次第だと思います。しかし、生徒たちに時間がないのと同じように、教員も部活の朝練をやって放課後もやると6時7時になってしまうので、準備する時間が取れない。だから機材をなかなか活用できていないのだと思います。

【A】学校によって異なりますが、私の勤務した中学校は環境が揃っていました。また、中学校での経験が活かしていると思う点は「発見させる」とか「気づかせる」とか、具体例を使って性質や一般性をいかに見出させるかということに心がけるようになったことです。中学の方が教科書の作りがよりそういう風になっています。例えば平行四辺形の話であれば、図形を折ったり回したりなどいろいろやって、何か気づく性質を挙げさせて、ではそれを証明してみようという流れになっています。だから、そういう「発見させる」ということに授業準備の時間をかけています。それが中高の違いだと思います。

【B】中学校では、研修が盛んで色々な研究発表を見ましたが、グループワークをやらせるケースがすごく多い。アクティブラーニングについては、その言葉自体を使わない先生が増えている印象です。今までやってきたこと

がアクティブラーニングだから、あえて取り立てて新しいことをやるわけではないと研究発表の中でおっしゃる先生が多い。これに代わって、教えあいとか学びあいを大事にする方が最近の中学校では多いです。先ほどの発見させるといことはすごく大事ですが、先に分かる子はいつも決まっていて、結局その子が基本ティーチャーみたいになっていて、分からない子はその子に教えてもらうだけみたいなことがほとんどです。一人一人が考える時間というのが取れば最もいいと思います。だからグループワークもよし悪しだと思います。

【司】すべての子が自分で考えて独力で発見という感じが最良ですね。

【D】アクティブラーニングは教材次第ですね。分かりそうで分からない教材さえ用意できれば、校種はあまり関係ない気がします。環境、設備に関しては中学校の方が圧倒的にいいと思います。分かりそうで分からない、みんなで一生懸命考えようとするような教材は奥が深く、難しいので、高校の方がやりやすいと思います。

【司】中学校は高校よりも1クラスの中で学力差が激しいですからね。

【D】先読みできちゃう子がいたり、一方で問題文の意味さえ分からない子がいたりする中で、ちょうどいい教材を用意して、生徒各々で発見があるような授業は絶対に高校の方がやりやすいと思います。

— 中学校の習熟度別授業や T.T. について教えてください。

【A】私のいたところでは基本的に T.T. でやっていました。特に1年生でやりました。

【B】今は3学年すべて習熟度でも T.T. でも数学科の先生がつける体制になっていますが、2年前は教科外の先生が T2 で入って、生徒指導的な意味合いだけで T.T. をしていることもありました。そういう学校は多いと

思います。また、特別な支援を要する生徒が年々増えてきているので、籍は特別支援学級ですが、数学の授業は通常学級に入ることがあります。その場合は特別支援担当の先生が専属でその子のために T2 に入るという感じでした。逆に、通常学級籍の子が数学だけはどうしてもついていけないので特別支援の子たちのクラスへ行くことがあります。ただ、それはやればやるだけ職員の持ちコマ数が増えて行くので、負担は大きいと思います。

【D】習熟度はやっていましたが、一番苦しいクラスになると生徒指導のクラスになってしまうから難しい。授業を座って落ち着いて受けられる子たちばかりではないので。

【C】2, 3年生は習熟度別という形で組んでやっています。それも数学科の先生だけでは人が足りないなので、理科の先生に持っていたでいています。T.T. では T2 が教科外の先生なので、内容が難しくなると教えられず、いてくれるだけの状況になり、活用しきれていないなと思います。

【E】教科外の T2 の先生には生徒指導や丸付けをお願いしていました。自分が T1 で入ったときに、教科外の T2 の先生にどのように指導していただくかすごく悩みました。

— 学力が高い生徒をどのように指導しましたか。

【E】数学が得意な子たちのために、毎回ではないですが、難しいおまけ問題をプリントに載せてやらせました。意欲のある子は朝や昼休みに私のところへ答案を見せに来ていました。授業外で刺激を与えていました。すると、授業中もこちらの意図を汲んでくれて「ここは周りの生徒に教えてあげないといけないところだ」「後で難しい問題があるから、みんなで取り組む問題は私たちが頑張る」などやってくれました。

【編】成績上位の子は、難しい問題への取り組みは良いですか。

【E】やらない子も若干いますが多くの子は取り組んでいます。

【A】教科書の問題が終わったら、同じ単元のワークをやらせていました。何もしない手持無沙汰の状態は作らないようにしました。今、選択教科は中学校ではないんですが、私が採用された頃は選択教科が週1時間あったので、数学基礎や発展という授業を用意しました。発展では、ハノイの塔や倍数判定法など中学生でもできる問題があるので、なるべく生徒が興味を持ちながらも自分で考えてやれるような教材を扱いました。

— 4 観点別で授業構成、テスト作成、成績をつける際、どういう基準でやっているのでしょうか。

【B】高校は100点法なり何なり、全部をトータルして評価することが多いと思います。しかし、中学校ではテストを作るときも授業中も観点別評価するのですごく難しい。見直しやお互いに観点に合っているかの確認はあまりやれていない気がします。そのせいで成績が1つの観点で極端に落ちると、それだけで評定が1ないし2下がってしまうことが起こり得ます。意味がないことはないですが、なかなか難しい評価方法だと中学校に勤めて思いました。

【D】4 観点別評価において中学校ではまずA, B, C という3段階評価をしますが、評定は5段階で付けます。

あとは、知識理解はすべてに必要なだと思います。知識理解がなければ技能もへったくれもない。4 観点ありますが、果たして各観点を1対1に25%ずつにしているかという問題も孕んでいる。そんな議論をあまり詳しくしていないというのが現状だと思います。もっと言えば、それを詳しくやって、作り上げる時間が中学校の現場にはありません。

【B】説明できないですよ。今のシステムについての納得できる説明を。

【D】説明責任を問われると結構難しい。だから、テストに「これは知識理解の問題です」など書くのですが、じゃあそれは本当に知識理解の問題なのかと問われると…。だから、観点別評価しなさいと言われるのであれば、学習指導要領などをもう少し分かりやすく書いてほしいと思います。

【司】そういったことはどこの中学校でも起こっているのでしょうか。通知表はどうなるのですか。

【A】A, B, C の観点で成績をつけて5段階の評定に直すところで、こちらとしては同じAだとしてもA^oやただのAがあるような気がします。同じA, B, C の並びがあった通知表において仮に評定で4と5の差ができてしまうと、見比べた生徒たちから「これは何が違うんですか」と聞かれるので、説明しなくてはいけない。だから各学校でAになる基準を決めることになると思います。ただその前提として、テストの各観点の配点がほぼ同じでないと、点数が大きく違っているのに同じ評定になってしまうということもあるので、説明を求められたときの準備をする必要があります。あとは、関心・意欲・態度をテストでどこまで評価するかが難しい。だからテスト以外、普段の授業の提出物などで評価します。しかし、授業態度がいいことや提出物をきちんと出したからといって、それが数学に対する関心意欲がそんなに高いのかという疑問です。

2 学校生活や指導する環境の違い

— 生徒指導的または能力的に厳しい子に対する指導法での成功例や失敗例はありますか。

【B】高校でできていたことで、中学ではできないと思ったことが、時間外の補習です。中学では下校時刻が決まっていて、冬は放課し

てから 20 分後が最終下校です。また、ほとんどの部活が朝練をやっていますから、できない子を集めて補習するということがまずできない。特にできない子は分数計算や二桁の割り算筆算も分からない。だから、基本の計算ドリルを購入して、毎授業の始め 5 分くらい、1 年次は小学校の復習から入り、2 年次は中 1 の復習から入りました。あとは、公立高校入試の大問 1 で点数を取れるように中 3 の年明けから指導しました。他の問題はひたすら後回しで、過去問から類似問題をやらせる感じです。

【A】補講は無理ですね。部活動を教員がいない状態で活動させるということができないんです。だから、本当に厳しい生徒は放課後ではなく長期休業中に来てもらいました。ただし、長期休業中に呼んで何かあったらいけないので、校長と保護者に事情を説明して、許可を得た生徒だけ指導しました。

【C】時間が本当にないので、個人的にやったことはありません。個別に生徒を呼ぼうとすると、管理職や学年主任に伺いを立てなければならず、高校以上に段階があって実現できなかった。だから授業中に気を使いました。

【司】生徒から補習の希望が出るのか、または教員から呼ぶのですか。

【A】こちらから声をかけました。でないと、何とかなるだろうと考えている生徒がいて、教員が思っているほど生徒本人に切迫感がないのです。

【B】しかし、厳しい子に限って来ない。

【司】自分の現状が分かっていないからですね。では、保護者から補習を頼まれるという場合はあるのですか。

【D】あまりないです。そういう家庭は大抵保護者も関心がない。それが現状です。勉強に関して優先順位は低い家庭だと思います。

【B】困ったらとりあえず塾に子どもを入れる。そうすれば自分の親としての責任は果たしたみたいな保護者は多い。

【D】中学校までは義務教育ですから、本当はいけないかもしれませんが、まずは読み書きそろばんですよ。中学校までは知識を詰め込むことに重点を置けば、できない子も理屈は分からないけど方程式は解けるようになる。賛否両論あると思いますが、消費税の計算ができないまま生徒を社会に出してもいいの。そちらの方を優先すべきです。結構厳しい子でも機械的に解くことは一生懸命やれるので。

【E】私が実践したのは、学校の体制として長期休業中の学習会をどの教科でも企画したことです。さらに生徒の集め方も公表して、保護者の同意を得ました。できない子と仲のいい生徒で意欲のある子にこちらから声をかけ、1 人で来ることが嫌なできない子を一緒に呼んでもらったことがあります。自分が見きれないときは、その意欲のある子に見てもらいました。できない子と仲が良くても、成績上位層の子は意味がないと考えて来ませぬ。だから中間層の子たちに声をかけることを意図的にやっていました。

【司】教員が声をかけるよりも仲のいい友達が声をかけるほうが、教員が本来呼びたい生徒が来てくれるということですか。

【E】中学校のクラスは非常に狭い世界だから、いわゆるキーパーソンみたいな子がやるって言えば、こそっとついて来るみたいなところがある。その点を狙っていました。

— 生徒指導上厳しい生徒に対して、どのように向き合いましたか。

【司】高校とは違い、中学校には特別支援学級や適応教室があり、色々な生徒に対するための教室があると思います。高校では普通のクラスにいる、特別な配慮を必要とする生徒が相対的に多いと思います。その点は中高の大きな違いではないでしょうか。

【A】教室に入れない子は反社会的ではないですが、自分の殻に閉じこもってしまいがち

です。不登校の子はそういう子の方が多く、人の中に入っていけない。人に溶け込めない子たちの方が適応教室に行き、先生方と雑談をしながら授業を受けていました。

【D】基本的に生徒指導上厳しい子が授業に参加しても、ターゲットをその厳しい子に絞ることはまずありません。生徒指導上厳しい子ばかりという中学校は滅多にありません。むしろそういう子がいる学校は、頑張る子とはことん頑張る。だからその頑張る子たちと授業をしていると、荒れている子は寂しくなって絡んでくるんです。声をかけながら進めていけば、いずれ学習にも頑張るようになることが多いです。

問題は学校に来ない子です。来れば何かかまってくれという感じになる気がします。来て校内で暴れる子も中にはいますが、そもそも学校に来ない子は難しい。高校と違うのは、最後までその子たちの指導に責任をもって当たることです。

3 中高連携の必要性

— 中高連携教育の一環で、異校種の授業参観は頻繁に行われていますか。

【B】出前授業を以前やりました。高校の先生方が中学校に行って授業するという形です。中学生でも分かる内容で、高校につながる内容を選びました。

【編】公開授業の案内が来て、行ったことがあります。最後の分科会も参加しました。私の高校では中学校とのつながりが大切だと考えているので、中学校がやっている授業練磨のようなものには参加しています。

【司】中高両方を経験した先生方としては、お互いの校種の現状を知るような研修の機会があったほうがよいと考えますか。

【D】教科に関しては個人的にあったほうがよいと思います。お互い教える焦点がずれて

いるときがあるので。力の入れどころの違いもあるし。

【E】生徒には基本的に数学のすべてを分かってほしいですが、高校では学校によって学力差があります。だから、最低限ここは分かって高校へ進学してほしいということが分かれば、中学生にも話をできると思います。

【B】生徒にも「高校の先生がこう言っていたよ」というのは影響力があります。

【E】以前勤めていた市では、月1回、生徒を昼で帰して午後に研究会を行い、それを年1回発表する際に、近隣の高校の先生に来てもらって交流をしていました。逆に高校がやっている研究会などに中学の先生が見に行ける機会があると、交流が持てると思います。

【司】高校側は次年度入学してくる生徒がどうい子なのかを知りたいという思惑があるし、中学校側もこういう子なのでお願いしますと、高校側の実態を知った上で生徒を送り出したい。交流の機会を設ければ、互いのことを知って、円滑に進められますね。

【A】互いの授業を見られる機会はある方がいい。中学ではアクティブラーニングはとくにやっているんだから、そういう授業を受けた子たちが、高校に入っていきなり講義形式の授業を受けることはギャップに感じると思うので、高校の教員が中学校の授業の様子を事前に知っておくことはいいと思います。

また、高校の教員も中学校がどんな内容を教えているのかを理解しておくのはいいと思います。「データの分析」では、中学校の「資料の活用」で用語をかなり教えているのに、それを高校数学でもう一度やるのは必要のない面もあると感じます。

【司】現行の教育課程では中学校と高校が少し重なる内容があります。自分の校種の学習指導要領は分かるが、他校種のそれは互いに分かっていない。生徒からすると違和感を覚えるかもしれません。

【A】スパイラルのように繰り返してやるこ

とは数学が苦手な生徒には効果的ですが、理解している生徒には必要ないと思います。

【編】中学校では教科書に記載されていることはすべて扱いますか。

【C】中学校は入試で出題されたときのことを考えて、教科書の内容はすべて扱います。

— 中学校と高校を両方経験してみて、感じていることや意識していることはありますか。

【D】両校種を経験したことで、中学だけを教えていた時にはここまで意識して教えなかったなという内容を丁寧に教えるようになりました。例えば、中学校で変化の割合を教えます。変化の割合は微分まで続く話です。だから、もっと深く教えなきゃいけない。もちろん中学にいたときもしっかり教えていたつもりですが、高校を経験することで、もう少し深くやっておけばよかったということに気づきました。これは両校種経験したことだから気づくことです。多分、いくら中学校ではこう、高校ではこうと言っても難しい。両方を経験しないと分からないことはあると思います。だから、人事の異校種交流はもっとたくさんしたほうがいいと思います。

【編】小学2年生の教科書を見ると、ものの個数と順序は何番目っていう話が出ていますが、これは順序数と濃度の話ではないかと気づかされますよね。

【D】よく見れば、小中の教科書はよくできていますよね。

【編】よくできています。ちゃんと数学的に考えられているなど感じます。

【D】そのことに気づくのは高校数学、いやその先くらいまで触れていないと気づきません。中学で採用され、中学で勤務を続け、すっかり忘れた頃に高校へ来て、そうだったなど思い出されました。

【B】中学では、浅く扱う箇所と深く扱う箇所が高校の教員の感覚とは異なっています。理解の入り口しかやっていないところは丁寧に

やらなければならないと思っています。やはり数学の教員はすべての校種の内容を理解した上で教えなければならないと感じました。

【司】やはり高校しか勤務経験のない先生方にも中学校の教科書を見ていただいたり、授業練磨に積極的に参加していただいたりして、高校で準備をした方がいいということですね。逆に中学校しか経験のない先生方にも同様のことをしていただき、中学校の教科書の内容をもっと深めてやってもらった方がいいかもしれません。

【A】中高のつながりを深められたらいいですよ。互いのことを知るとするのが大事だと思います。

本日まで参加いただいた先生方、お忙しい中、誠にありがとうございました。

【編集委員会】